

令和6年 第4回

四日市市教育委員会会議案

関係資料

日時 令和6年 3月21日 午前9時30分～

場所 四日市市役所 9階 教育委員会室

令和6年 第4回 教育委員会会議 議事

○報 告

令和5年度の教育委員会における点検及び評価について…………… P 3/40

令和6年2月定例会議の経過について…………… P 8/40

教育委員会ホームページについて…………… P 39/40

令和5年度 四日市市教育施策評価委員会 概要(報告)

1. 第1回

【視察テーマ】 本市の教育施策について
「人権教育の充実」(基本目標2 ころとからだの健全な育成)に係る施策の実施状況について

- (1) 日時 令和5年12月15日(金) 13時30分～15時30分
- (2) 視察場所 山手中学校
- (3) 目的 四日市市学校教育ビジョンに基づく施策の展開について評価を行う
- (4) 出席者 <四日市市教育施策評価委員> 織田 泰幸(三重大学教育学部教授)
高田 晴美(四日市大学総合政策学部教授)
<山手中学校> 山下 英樹(学校長)、樋口 範之(教頭)
<反差別・人権研究所みえ(ヒューリアみえ)> 荻田 実樹(主幹)
<教育委員会事務局> 前田教育監、森教育総務課長、
金原人権・同和教育課長、
安田人権・同和教育課指導主事、
教育総務課政策G(岡本、吉田)

(5) 報告

①人権・同和教育課より

- 第4次四日市市学校教育ビジョンに係る取組について
- ・第4次四日市市学校教育ビジョンにおける位置付け
基本目標2 ころとからだの健全な育成 人権教育の充実
 - ・具体的な取組等
 - ア 子どもが主体となる人権教育の充実
メディア・リテラシー養成を通じた人権教育の推進
子ども人権フォーラムの育成
校内研修会での指導・助言
 - イ 教職員人権教育研修会の充実
人権教育推進人材バンク登録者の活用
教職員人権教育研修会の実施
 - ウ 地域や家庭とともに取り組む人権教育の推進
県教育委員会委託「子ども支援ネットワーク・アクション事業」の活用
各種リーフレットの配付

○今後の方向性

②学校より

- ・学校づくりビジョンにおいて、柱の1つに「ころとからだの健全な育成」を掲げ、「自己存在感、自己有用感を感じる機会を通し、自分も他人も大切に作る心を育成する」としている。

- ・気になっていることは、2年生のアンケート結果において、「自分にはよいところがありますか」「将来の夢を持っていますか」が他の学年より低いことである。

(6) 教育施策評価委員からの主な意見及び評価（※評価は下線部）

【メディア・リテラシー養成、出前授業】

- ・ 授業者の話の進め方、生徒たちの興味・関心の惹き方は巧みであった。スライドなどの内容もよく練られたものだった。
- ・ 授業者は「なぜこのような問題はなくなるのか」「なぜ『してはいけない』とわかっているのにやってしまうのか」といった問いかけをし、正義にもいろいろあることに気付かせたいという考えを持っておられた。このように正解がない問いについて考えさせる経験は重要である。
- ・ 著名人が自殺したなどといった事件についてなど、1つ1つの事例にはそれぞれの経緯がある。正義感から声を挙げている可能性もあれば、誰かを守るために誰かを攻撃している場合もある。その経緯をたどりながら、問題を分析できる機会があるとよい。
- ・ 何は良くて何は避けるべきか、「誹謗中傷」と「批判」はどこが違うのかなど、講義だけで終わらせるのではなく、それを発展・進化・深化させるケーススタディワーク、グループディスカッションなどにつながれると、より意義のあるものになる。そのためには、2時間連続で行う、後日ディスカッションする機会を設けるなど、時間を増やせることが望ましい。
- ・ 中学生のメディア・リテラシーとして、情報の確かさ・情報源（ソース）は何かを確認することの重要性が大切にされていた。情報の真意を見抜くことが一層困難になってきている昨今の状況を考えると、今回のような人権教育を通じて「メディア・リテラシー」を高めるための地道な取り組みを進めていくことは極めて重要である。

【なかまづくり】

- ・ 授業の中で「クラスで自分を出せているか」という問いがあった。クラスの中には意図をもって自分を「出さない」生徒もいるのではないかと。「本当は自分を出したいが、出せないことに苦しんでいる」生徒がいるのであれば、担任だけでなく、授業を担当する教員やクラスの生徒たちの関係の中で、こうした生徒が安心して過ごせるクラスをどのように作り出せるかが課題となる。
- ・ 周りの雰囲気の中に、こうあるべきという考えがあると、自分が出しにくくなるように感じている。多様な価値観を楽しむことができるという空気を作ることができれば、自分を出しやすくなるのではないかと。

【教職員研修】

- ・ 教職員研修について、「認識が変われば行動が変わる」と言われているが、「行動が変われば認識が変わる」のではないかととも言われている。今の研修は、詳しい方が来て情報を伝えて終わるというスタイルが多い。知識を伝えて行動を変えろという研修だけでなく、行動した結果、認識が変わるというような研修の仕組みを検討していただきたい。

【地域や家庭とともに取り組む人権教育】

- ・ 保護者や教師などの「大人」がフェイクニュースを鵜呑みにする場合もあることから、メディア・リテラシー養成を生徒だけの問題とするのではなく、教師や保護者を含めた大人がこの能力をつける必要性を痛感している。

2. 第2回

【視察テーマ】 本市の教育施策について
「体力・運動能力の向上」(基本目標2 心とからだの健全な育成)に係る
施策の実施状況について

- (1) 日時 令和6年1月23日(火) 9時30分～11時30分
- (2) 視察場所 塩浜中学校
- (3) 目的 四日市市学校教育ビジョンに基づく施策の展開について評価を行う
- (4) 出席者 <四日市市教育施策評価委員> 織田 泰幸(三重大学教育学部教授)
高田 晴美(四日市大学総合政策学部教授)
<塩浜中学校> 森 達也(学校長)、小崎 祐一郎(教諭)
<教育委員会事務局> 前田教育監、森教育総務課長、草川指導課長、
伊藤指導課課長補佐兼指導第1係長、
三谷指導課指導第1係指導主事、
教育総務課政策G(岡本、伊藤(敬)吉田)

(5) 報告

①指導課より

- 第4次四日市市学校教育ビジョンに係る取組について
 - ・第4次四日市市学校教育ビジョンにおける位置付け
基本目標2 心とからだの健全な育成 体力・運動能力の向上
 - ・本市の現状と施策の目的・内容
「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果より
 - ・具体的な取組等
 - ア 運動好きの子どもを育てるための授業改善
教師用指導資料の活用、作成
「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果の分析を踏まえた授業改善
教職員の指導力向上をはかるための実技研修会の実施
 - イ 主体的に運動に親しむことができる環境づくり
体力・運動能力推進校の取組

○今後の方向性

②学校より

- 「新5分間運動からはじめる授業づくりガイドブック」について

(6) 教育施策評価委員からの主な意見及び評価(※評価は下線部)

【新5分間運動、準備運動】

- ・ ルーティン化されつつも惰性ではなく、音楽に身体と心を合わせて準備運動そのものをエンタメとして楽しんでいるように見受けられた。これだけのバリエーションを時間もかけてこなせば、週に数時間するだけでも体力・筋力の強化・維持に有効であると思われる。準備運動に工夫を凝らして時間をとるのもありだと実感した。

【授業づくり】

- ・ 運動を苦手とする子どもも楽しく取り組めるように工夫された授業だった。
- ・ 活動までに理論的な説明もあった上で、適宜途中で活動を止めながら具体的なイメージでポイントを押さえた指示がなされていた。 どんなに運動が苦手な生徒でもその子なりにできるようになるのではないかと思った。
- ・ 仲間の様子を見ると体の使い方の違いもわかりやすく、リアルに感じやすい。 経験者であればできて当然とってしまいがちだが、そうでない生徒ができていて自分もできるのではないかと思えて効果的である。
- ・ 準備運動に時間をとられたこともあり、課題に十分な時間をかけることが難しかった。 生徒によっては消化不良感が残ったかもしれない。 1時間の授業における時間配分と内容のバランスが難しいところであろう。
- ・ 授業者は、授業中のいずれの活動においても、何らかの教育的な意図を持っていた。 体力・運動能力の向上は、授業の時間だけで実現することは難しいが、授業をきっかけとしてその実現を目指すことはできる。 そのためには、教師からのきめ細やかな声掛けや環境設定が重要である。

【運動好きの子どもを育てる】

- ・ 「体育の授業は楽しい。でも普段はスポーツをする環境がないのでしていない。」という生徒は、調査に対して肯定的な回答がしにくいのではないか。 授業での楽しさが日常につながればよいと思う。
- ・ 運動ができると思っている子は、運動が嫌いにはならない。 運動ができないことがコンプレックスになると嫌いになるのではないか。 「楽しい」「好き」という気持ちを大切にしたい。

【運動の日常化】

- ・ 今日の授業を受けて、キャッチボールなどは授業以外の場面で練習できる機会があるとよい。
- ・ 「授業以外の時間で」というのがポイントになる。 他の教科であれば、自分がやりたいと思った時にできるが、体育は場所や人数など、制限がかかってしまう。 自分のペースでやりたいときにやるのが難しいため日常化しにくい。

【教職員研修】

- ・ 中学校と違い、小学校は体育専科が圧倒的に少ない中で取組を進めていくのは大変なことである。

3. 今後の予定

- 第3回 テーマ：本市の教育施策について（ICTの効果的な活用）
日 時：4月末～5月中旬
視察先：市内小学校または中学校
- 第4回 四日市市教育施策評価委員と事務局との懇談
日 時：5月末
場 所：四日市市役所9階 教育委員会室
- 第5回 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価
（四日市市教育委員との懇談）
日 時：令和6年7月17日(水) 9：30～11：30
場 所：四日市市役所9階 教育委員会室

令和6年2月定例会議会の 経過について

四日市市教育委員会

令和6年2月議会(本会議)の質問質疑に対する答弁要旨

◎代表質問

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>荒木 美幸 (公明党)</p>	<p>○避難所の環境改善(小中学校の体育館の空調整備)について 小中学校の体育館は、こどもの学びの場であるとともに、災害時は避難所としての機能も求められている。特に近年の猛暑を鑑みると空調設備は必要と考える。また、能登半島地震を受け、避難所の環境整備が求められるなか、今こそ小中学校の体育館への空調整備を検討すべきではないか。</p> <p>○新図書館のコンセプトについて(ティーンズスペースの確保) 新図書館は駅前を想定に、全世代を対象とした滞在型図書館を目指しているが、中でもティーンズには、最も良い学習環境を確保すべきである。新図書館には、体や心を育むために、ティーンズ世代が魅力を感じるスペースを確保すべきであると考えがいかがか。</p>	<p>(市長) 災害時の指定避難所に指定している119施設のうち、体育館を避難所としているのは82施設あり、そのうち小中学校の体育館59施設を含め、計78施設については、空調が整備されていない現状。 現時点では、大規模災害時に小中学校の避難所を開設する場合、状況に応じて、空調が整備されている特別教室などを学校と協議して利用することや、スポットクーラーなどを災害時に関する協定などに基づき、民間事業者の協力を得て調達していくこととしているが、特に夏場の気温が40度にせまる猛暑の日が多く発生するなど、近年の気象状況を考慮した避難所の環境改善はとても重要と認識している。 小中学校を含む避難所となっている体育館の空調整備については、事業費が高額になることや、体育館は体積が非常に大きいことから、空調方式や施設の断熱性能など、多くの課題があるものの、他都市の先行事例や国の支援制度も参考にしながら、引き続き実現に向けた課題整理を進めていく。</p> <p>(市長) 今年度は、2回開催した高校生向けのワークショップや、いくつかの高校からの提言書において、新図書館の設備や図書、イベントに関することなど、期待のこもったたくさんのご意見を頂戴した。 これらの意見を参考に、学習室においては、友達と集まって勉強できるグループ学習室、パソコン等の持ち込みも禁止し静けさを保つ学習室、隣の席と間仕切りのあるカウンタータイプの学習エリア等種類の異なる学習環境を考えている。 それに加えて、部活動や進路など中高生を主に対象とした本を集めたコーナーや、フレキシブルに活用できるフリースペースを備えたティーンズスペースを用意しようとしているところである。 新図書館は、勉強であったり、読書であったり、友人同士の語りであったりと、来館される方々の時間・空間の使い方を尊重し、皆さんが有意義な時間を過ごせる居心地の良い図書館としたいと考えている。</p>

令和6年2月議会(本会議)の質問質疑に対する答弁要旨

◎代表質問

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
荒木 美幸 (公明党)	<p>○学校給食費の無償化について 学校給食は、栄養バランスの良い食事を提供し、子どもたちの成長や発達を支えるだけでなく、食育や社会性を育む場としての役割もある。しかし、コロナ禍や物価高の影響で、貧困家庭では給食費の支払いが困難な場合もある。給食費の無償化は、こうした課題を解決し、すべての子どもが平等に栄養バランスの良い食事を摂取できる環境を実現するための重要な政策である。本市でも早期に実施すべきではないか。</p>	<p>(市長) 経済的に困難な状況にある家庭に対しては、学校給食費を全額公費で支援している。また、令和6年度は物価高騰分約2億4千万円を公費負担し、保護者の負担を増やさずに引き続き栄養バランスや量を保った給食を提供する。物価上昇分の一部公費負担の継続は、物価や景気動向を注視しながら検討していく。給食費の無償化は多額の費用がかかるため、その意義や効果、実施期間などを慎重に判断する必要がある。今年6月に発表される国の調査結果を注視し、財源も含め、最適な方策を検討する。</p>
川村 幸康 (政友クラブ)	<p>○温水プールの建て替え工事について 昌栄町の温水プール改修費用で学校プールを全部改修できるではないか。昌栄町温水プール改修については、もう一度立ち止まって費用を積み上げていけばよいのではないか。学校プール事業では、教育長が教育の場で頑張っている。市民へのプール事業ではシティプロモーション部長が頑張っている。それをまとめる指示役が必要でそれが副市長ではないか。5年後10年後を考えて、この1・2年で何をしていくかが重要であるが、市長はどう考えるか。</p>	<p>(市長) 昌栄町の温水プールでは、年間約3万人の方々にご利用いただいているが、老朽化が著しく、このまま対策を講じなければ、多くの市民の利用機会を奪うことになるため、今年度に契約に入っていく。50mプールの水泳競技場建設については、当該温水プールの建て替え工事とは別に新たに協議が必要と考える。温水プールは競技力向上のためのスポーツ施設であり、学校プールとは異なる課題解決のために必要な経費と考えている。</p>
小林 博次 (市民目線の会)	<p>○小中学校のソーラーパネルについて 小中学校の全校舎と体育館にソーラーパネルの取り付けをしていただきたい。</p>	<p>(市長) 小中学校における太陽光発電設備については、校舎を改築する際に屋上に設置することとし、これまで小中学校9校に設置している。 一方で、既設の校舎や体育館の屋上に、重量のある太陽光発電設備を設置することについては、建物の耐震性能に影響がある。また、高度経済成長期以降に大量に建設された校舎については、改築の時期が迫ってきている状況にあることから、今後においても、太陽光発電装置は、校舎を改築する際に設置していきたいと考える。</p>

令和6年2月議会(本会議)の質問質疑に対する答弁要旨

◎一般質問

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>太田 紀子 (日本共産党)</p>	<p>○「発達性ディスレクシア」発達性読み書き障害について</p> <p>①「発達性ディスレクシア」について、どのように認識・把握しているか。</p> <p>②「発達性ディスレクシア」について、どのような支援がされているか。</p> <p>③つくば市のように、本市でも早期発見・早期支援体制を導入してはどうか。</p> <p>④現在市ではどのような専門職が配置されているか。</p> <p>⑤「発達性ディスレクシア」について、教員研修開催、保護者、児童生徒向けリーフレット作成をしてはどうか。</p> <p>⑥HSC(ハイリー・センシティブ・チャイルド)についても、実態掌握、理解と支援が必要と考えるが見解はどうか。</p>	<p>(教育長)</p> <p>①「発達性ディスレクシア」は、神経的な原因による学習障害とされ、知能障害や感覚・運動障害、注意力散漫や意欲の欠如、家庭や社会的要因による障壁が存在しないにも関わらず、読み書きの習得のみに困難を示す障害のことといわれている。四日市市では「通常の学級における障害等のある児童・生徒の実態調査」を行い、学習障害と診断されている児童生徒や、その疑いのある児童生徒数を把握している。</p> <p>②通常学級の指導では、漢字への振り仮名振り、教師による読み上げ、絵や写真などを使った説明、課題の分量調節、タブレットやデジジー教科書の使用等の支援を行っている。また、通級指導教室やサポートルームで、学習の一部に支援が必要な児童生徒に指導もを行っている。</p> <p>③就学相談を経て各小学校の通常の学級へ入学した子や、通級指導教室及びサポートルームで読み書きに苦手さがある子について実態把握を行い、早期発見と支援体制の構築に努めていく。</p> <p>④特別支援教育の専門的な研修を受けた教員が担当する通級指導教室を設置し、読み書きやコミュニケーションの苦手さに対する指導を行っている。また、各小中学校にSC、各中学校区にSSW、市内34小中学校に特別支援教育支援員が配置されている。教育支援課ではセラピストが常駐し、発達検査やプレイセラピーを行っている。</p> <p>⑤特別支援教育に関する講座を開催しており、令和4年度には「発達性ディスレクシア」についての講座に100名近くの教職員が参加した。また特別支援教育指導者養成研修、指導主事を派遣しての校内研修会も毎年行っている。リーフレットについては、通級指導教室のリーフレットと『早期からの途切れのない支援のために ガイドブック』を作成している。今後も啓発活動をすすめていきたい。</p> <p>⑥ハイリー・センシティブ・チャイルドに特化した対応は行っていないが、様々な感覚の過敏さから影響を受ける学校生活の難しさに対して、子どもたち一人ひとりに合わせた配慮や支援を行っている。今後も情報収集に努め、周知や適切な対応方法について研究していきたい。</p>

令和6年2月議会(本会議)の質問質疑に対する答弁要旨

◎一般質問

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
中川 雅晶 (公明党)	<p>○「居場所づくり」について</p> <p>①本市の「居場所づくり」に関する現状の取組及び方向性について伺いたい。</p>	<p>(教育長)</p> <p>①学校は多くの子ども・若者にとって安全に安心して過ごしながら、他者と関わりながら育つ大切な居場所の一つである。また、地域における交流やつながりの場が子ども・若者のみならず、その担い手にとっても居場所になると考えられる。</p> <p>本市では、すべての小中学校を「四日市版コミュニティースクール」に指定し、「地域とともにある学校」づくりを進めている。</p> <p>「四日市版コミュニティースクール」は、保護者、地域の皆さんが学校の応援団として、主体的に学校づくりに参画する地域と学校との協働活動の取組も併せ持った組織体制づくりを進めてきた。</p> <p>今後も多世代、多様な人たちとつながりながら既存の地域活動を継続的な取り組みとしていくことが、子どもの居場所づくりにつながるものと考えている。</p>
荻須 智之 (政友クラブ)	<p>○朝明中学校通学路の問題と移転中止の背景について</p> <p>①朝明中学校の通学状況を視察した市長の感想はどのようなものか。</p> <p>②「大矢知郵便局前交差点」は月に二度ほど小中学生で大混雑する。また、過去6年間の事故件数は「大矢知郵便局前交差点」が19件、「山分橋南交差点」が0件である。教育委員会は両交差点をどのように判断しているのか。また、市長の感想はどのようなものか。</p> <p>③2月19日に四日市北警察交通課長が「山分橋のほうが安全だ」と言っているが、11月定例月議会での「荻須のミスリード」という市長の発言は撤回しないのか。</p> <p>④自転車橋の建設費は調査しないのか。</p>	<p>(市長)</p> <p>①「大矢知郵便局前交差点」は注意が必要な箇所であると改めて確認した。</p> <p>(教育長)</p> <p>②「大矢知郵便局前交差点」は、横断歩道のあるところで八風街道を横断できるため、従前のルートに比べて、安全性は高まったと考えている。ただし、登校時間帯に小中学生が集中する等、注意が必要な箇所であると認識している。「山分橋南交差点」についても、通学路を変更すると利用人数が大きく増え、視認性も悪いため、こちらも注意が必要な箇所であると認識している。なお、「山分橋南交差点」への信号機設置については、四日市北警察交通課に確認し、設置は不可であるとの回答を得ている。</p> <p>(市長)</p> <p>教育長の答弁と同様、どちらも注意が必要な箇所であると認識している。</p> <p>(教育長)</p> <p>③どちらの交差点も注意が必要であると言う認識からの発言であると理解している。</p> <p>④学校はPTAとともに、現状の道路においてルートの分散等、さまざまな可能性を選択肢に加えて、通学路の検討を行っているところであり、自転車橋についての調査を行う段階ではないと考えている。</p>

令和6年2月議会(本会議)の質問質疑に対する答弁要旨

◎一般質問

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>荻須 智之 (政友クラブ)</p>	<p>○朝明中学校通学路の問題と移転中止の背景について ①朝明中学校の移転案を含めた大矢知地区の問題が協議された総合教育会議は形骸化しているのではないか。</p> <p>②具体的にはどのように教育委員を選ぶのか。</p>	<p>(教育長)</p> <p>①平成27年に設置が義務付けられた総合教育会議では、首長の教育行政における責任や役割が明確になり、教育政策の議論や共有が可能になった。 森市長就任後の総合教育会議では、平成29年2月及び3月に、朝明中学校の問題について協議した。これらの会議の場では、子どもたちの教育環境や安全を守ることを最優先事項として議論するとともに、市長と教育委員会が両者の方向性を共有し、一致して執行にあたるために協議をしていることから、決して形骸化していることはなく、意義のある会議であった。</p> <p>②教育委員の選出方法は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し、識見を有する方の中から、市長が議会の同意を得て任命している。当時の教育委員も十分な資質を持ち、子どもたちの教育環境の充実及び改善を図るとの強い使命感を持って職務にあたっているため、そのような指摘は非常に遺憾である。</p>

令和6年2月議会(本会議)の質問質疑に対する答弁要旨

◎一般質問

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
笹岡 秀太郎 (政友クラブ)	<p>○天文施策について</p> <p>①プラネタリウム100周年を契機として、事業をさらにブラッシュアップしていく絶好の機会だと考えるが次代に繋ぐ天文施策の方向性についてどう考えるか。</p> <p>②次世代に繋ぐ人材の確保策についてどのように考えているか。</p> <p>③プラネタリウム運営について、職員の雇用条件のあり方や、指定管理や業務委託を含めて議論されるべきと考えるがどうか。</p> <p>④博物館の長期休館中も天文普及事業は継続的に進めていく必要がある。きらら号の利用状況及び更新の方向性、天文ボランティアとのさらなる連携推進策についてはどうか。</p>	<p>(副教育長)</p> <p>①今後の天文施策については、デジタル機器の普及に伴い、来館したくなるような魅力的な事業に加えて、来館が難しい方々に、オンラインで参加いただけるようなイベントの実施など、事業に応じた新たな手法を研究し、より多くの方々に利用いただける事業を展開していきたい。</p> <p>②天文施策を維持発展させるため、蓄積されてきたノウハウを次世代に的確に継承し人材の育成を行うことは重要と考えている。 専門知識を有する学芸員を核とした職員体制を構築するとともに、よりよい人材育成や確保について検討を進めていきたい。</p> <p>③会計年度任用職員にプラネタリウムで働き続けたいと感じてもらえる方策についてしっかりと検討していきたい。指定管理や業務委託については、そらんぼ四日市として博物館業務や四日市公害と環境未来館との連携の中で考えていかななくてはならない。</p> <p>④平成30年度から令和4年度までの直近5年間の予定回数は171回で、天候不良のため3分の1程度が中止となり実施回数は110回。参加者は延べ9,976人である。 天文ボランティアの活動継承については、定期的にボランティアの新規募集を行い拡充を図っている。天文ボランティア活動を通じてプラネタリウムと来館者や地域とをつなぐ架け橋となっていたいただきたいと考えている。 きらら号は平成8年の運用開始から今年で28年目を迎え、老朽化も進んでいる。観望会のあり方や機能も含めて調査研究を進め、更新に向けての検討を進めてまいりたい。</p>

令和6年2月議会(本会議)の質問質疑に対する答弁要旨

◎一般質問

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>日置 記平 (政友クラブ)</p>	<p>○自殺から子供を救う ①自殺から子どもを救う教育における取り組みについて</p>	<p>(副教育長) ①自殺意識調査や近年の報道を見ると、児童生徒のリスクを大変危惧している。 「命を大切に作る教育」として、学習指導要領に準じた道徳教育に加え、性・生命に関する学習、薬物乱用防止教育を実施している。また、子どもの心の健康と病気の予防・早期支援・よりよい回復を目指したネットワークであるYESnetの活用、リーフレットや自殺予防教育に関する教材の周知を行っている。 「相談・支援体制の充実」については、連絡帳や日記帳などの児童生徒と教職員が日常的にやり取りするツールに加え、学校生活アンケートやQ-U調査を基にした教育相談を実施している。今後は心身の状態を表現できるツールの導入や、SNS相談アプリの活用を積極的に進めていく。リスクを把握した場合は、TALKの原則を基に児童生徒の思いに寄り添った支援を心がけるとともに、必要に応じて関係機関や専門家と連携し、家庭との連携も図っていく。 「教職員研修の充実」については、専門家を講師とした自殺予防に関する研修を実施し、さらにYESnet主催の研修として教職員が「子どもの心の健康や病気の予防」について学ぶ機会を提供している。</p>
<p>後藤 純子 (フューチャー 四日市)</p>	<p>○主権者教育について ①四日市市における主権者教育の取り組み状況について</p> <p>②主権者教育を本市で推進していくためにも、学校・教育委員会・選挙管理委員会等が連携していくことが大切であると考えているが、教育長の所感を伺いたい。</p>	<p>(教育長) ①平成29年に告示された学習指導要領解説総則編においては、政治・経済・法律などに関わる様々な課題に対応して求められる資質・能力の一つとして「主権者として求められる力」が挙げられており、教科等横断的な視点で資質・能力を育成するとともに、学校教育活動を通してその力の育成が図られている。市内小中学校においても、社会科をはじめ、総合的な学習の時間や特別活動など、様々な場面において主権者教育を位置付けている。今後も、主権者教育を進め、将来の有権者である児童生徒が政治に主体的に関わろうとする意欲や態度を育むとともに、主体的に社会に参画しようとする力を育んでいきたいと考えている。 ②多摩市の給食大臣選挙等のような体験的な主権者教育の機会は大切であると考えているため、選挙管理委員会の取組については、教育委員会としても協力していきたい。</p>

令和6年2月議会(本会議)の質問質疑に対する答弁要旨

◎一般質問

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
山田 知美 (新風創志会)	<p>○「こどもまんなか社会に向けこども達と作る四日市」</p> <p>①放課後の学習や居場所についての取組状況はどうか。</p> <p>②タブレット端末の無償貸与は継続されるのか。</p> <p>③中学校給食について、ワイ！ワイ！GIKAIで、デリバリー給食のように、漫画やアニメのアイデアを取り入れたメニューや、いろんな人が提案したメニュー等を献立に取り入れてほしいといった意見など、複数の意見が出されたが、今後、中学生の意見を取り入れながら献立作成等に取り組んではどうか。</p>	<p>(教育長)</p> <p>①放課後の学習支援として、県補助事業を活用した地域子ども教室を7中学校区で実施している。また、今後は学校だけではなく地域における居場所づくりについて、コミュニティスクール運営協議会でも課題として取り扱うよう働きかけていく。</p> <p>②文部科学省から必要な台数の2/3に対しては、1台あたり55,000円の国庫補助を行う見込みであることが示された。本市としても、四日市市GIGAスクール構想を進めていくうえで1人1台タブレット端末を必要不可欠なものとなし、必要な費用について全額を国庫補助の対象とするよう国へ要望するとともに、保護者への負担とならないよう、市単独の予算措置についても検討していく。</p> <p>③中学校給食は、文部科学省の基準に基づく栄養バランスの整った献立を、栄養教諭が中心となって作成しており、例えば昨年11月には、本市で開催された「東海・北陸B-1グランプリ」に合わせて、献立に「ご当地メニュー」を取り入れる等、中学生が食に関心を持ち、魅力を感じてもらえるような給食となるよう工夫を重ねている。</p> <p>また、昨年10月から11月にかけては、生徒に対して「もう一度食べたい」と思うメニューについて自由記述のアンケート調査を実施し、このアンケート結果を踏まえて、人気の高かったメニューを3月の献立に取り入れる予定である。</p> <p>今後の献立作成においても、中学生の意見やアイデアを適宜取り入れながら、本市独自の魅力的な給食の提供に努め、何より中学生が給食時間を楽しんでいると思ってもらえるよう、創意工夫していきたい。</p>

令和6年2月議会 付託議案の質問質疑に対する答弁要旨

- ◎議案第140号 工事請負契約の締結について～高花平小学校運動場整備工事～
- ◎議案第141号 工事請負契約の締結について～三重西小学校大規模改修工事(2期工事)～
- ◎議案第142号 工事請負契約の締結について～常磐西小学校南校舎大規模改修工事～
- ◎議案第143号 工事請負契約の締結について～川島小学校長寿命化改修工事(1期工事)～
- ◎議案第144号 工事請負契約の締結について～八郷西小学校長寿命化改修工事～
- ◎議案第145号 工事請負契約の締結について～中部中学校管理教室棟保全改修工事～
- ◎議案第146号 動産の取得について～移動図書館車 1台～

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>森川 慎 (政友クラブ)</p>	<p>○物価上昇について ①ここ数年で建設費はどのくらい上昇しているか。 入札不調にならない為に、物価上昇に見合った価格設定を行っているか。</p> <p>②物価上昇分は、市費での負担となるのか。補助金は物価上昇に対応しているのか。</p> <p>○トイレのドライ化・洋式化について ①トイレのドライ化は大規模改修の時以外は行わないのか。</p> <p>②市内のトイレのドライ化はどれくらい進んでいるのか。子ども達から使いづらいという声も聞くので、ドライ化や洋式化を進めてほしい。</p>	<p>(教育施設課長)</p> <p>①建築費指数は、様々な要因が絡みあい、上昇を続けており、昨年の5月頃から更に上昇している状況にある。物価が引続き上昇していることもあり、物価上昇を見込んで予算要求をしている。</p> <p>②議案の工事は、運動場整備やフェンスなど、国からの補助金を受けて行っている。補助金も物価上昇に見合った金額になるよう要望していく。</p> <p>①トイレのドライ化は大規模改修工事の際にのみ行っている。</p> <p>②ドライ化についての数値は持ち合わせていない。洋式化については、大規模改修工事以外でも、個別に進めている。</p>
<p>谷口 周司 (新風創志会)</p>	<p>○移動図書館車について ①2台所有は、30万人規模の都市では多いのか少ないのか。</p> <p>②以前の移動図書館車と機能面で変わるのか。</p> <p>③Wi-Fi拠点になったり走っているところがリアルタイムでわかったり、何か目につくような工夫をしてほしい。(意見)</p>	<p>(図書館長)</p> <p>①都市によって違う。図書館数が30万人都市としては少ないので、アウトリーチサービスとして必要であると認識している。</p> <p>②積載量は従来どおりで、図書館システムを搭載したパソコンを持っていくので貸出サービスは向上する。移動図書館車は3種しかなく、車の機能自体はこの何十年で大きな変化はない。</p>

○採決 ⇒ 可決するものと決した

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨

◎令和6年度当初予算(新教育プログラム推進事業費(読解力向上))

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
村上 暁 (日本共産党)	<p>①全小中学校に専門的知識を有する司書を派遣し、司書教諭等と連携して等の記載があるが、司書が配置されていない図書室もあるのか。</p> <p>②各校に司書を配置するのは難しいのか。</p> <p>③図書室に司書がいる環境が読書に良いと思うので検討してほしい。(意見)</p>	<p>(指導課長)</p> <p>①各校に週1回以上司書を派遣している。</p> <p>②人材確保が難しいことから、専門の図書館司書を毎日配置するのは難しい。</p>

◎令和6年度当初予算(新教育プログラム推進事業費(生命・性に対する出前講座))

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
村上 暁 (日本共産党)	<p>中学校の授業内容のうち、「妊娠と出産のライフプラン」について内容を確認したい。中学生が性感染症の危険性や、望まない妊娠をしないという点を学ぶことが大切と考えるがどうか。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>妊娠から出産に至るまで妊婦はどのような生活をするかというのが主な内容である。性感染症の予防については、小中学校での保健の授業とともに、外部講師による授業にも取り組んでいる。</p>

◎令和6年度当初予算(新教育プログラム推進事業費(民間プール施設の活用について))

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
森川 慎 (政友クラブ)	<p>学校水泳民間プール施設活用に向けた調査業務委託の調査内容を確認したい。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>本市の学校プールの中長期的な在り方について調査を行い、具体的な計画の策定につなげるものである。</p>
山口 智也 (公明党)	<p>民間事業者との協議の状況はどうか。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>民間プールで水泳指導をしている現場に指導主事が訪問しており、各事業者との協議も行っている。</p>
森川 慎 (政友クラブ)	<p>遅くともいつまでに民間へ移行したいとの考えはあるのか。</p>	<p>(教育長)</p> <p>プールの老朽化、校舎の建て替えの時期等を考えると、およそ15年後までには結論を出さなければならない。</p>
山口 智也 (公明党)	<p>計画を立てる時期はいつなのか。</p>	<p>(教育長)</p> <p>来年度の調査結果を確認し、できるだけ早い段階で議会にも計画を示したい。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨
 ◎令和6年度当初予算(新教育プログラム推進事業費(リテラス論理言語力検定))

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
村上 暁 (日本共産党)	予算はいくらか。	(指導課長) 予算は586万円。
森川 慎 (政友クラブ)	<p>①内容、その活用方法はどのようになっているか。</p> <p>②中学校後半で受けているが、結果を受けて、教育活動の中で改善していくには、この時期では難しいのではないか。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>①検定内容は言語能力を測るための内容となっており、本市では3年生が11月に受けている。生徒が中学校3年生の後半時点で身に付けている言語能力を知り、今後の指標を探るものである。</p> <p>②中学校生活の中で改善していく取組としては課題があると認識する。受検結果を受けて、社会に出ていくことに向け、どこを改善すればいいのかを自分なりに生徒に振り返ってもらう。</p> <p>(教育長)</p> <p>ベネッセと共同研究し、言語能力と学力の関係を明らかにするなど、本検定を有効活用していきたい。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨
 ◎令和6年度当初予算(チーム学校推進事業費(SNS相談アプリについて))

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
谷口 周司 (新風創志会)	①昨年度の課題として、返信が夕方1回に限られることが挙げられていたが、現状はどうか。 ②相談員はどのような方か。 ③相談を受けた後の対応は、教員の過度な負担とはならない程度という理解でよいか。 ④16時～22時にしか返信ができないのか。	(指導課長) ①相談時間を16時～22時に変更した。 (指導課副参事) ②今年度から相談アプリ事業者に委託しており、専属の相談員が行っている。 (指導課長) ③学校と連携することもあるが、先生方に過度な負担とはなっていない。 (指導課副参事) ④利用時間については、令和4年度の利用時間に基づき設定した。現在の契約ではこの時間帯となっている。今後、利用時間については実態に応じて検討していく。
山田 知美 (新風創志会)	①アプリ名、アクセス統計、セキュリティを教えてください。 ②相談員は資格等要件があるのか。	(指導課副参事) ①アプリ名はスタンドバイ。個人所有のスマホや1人1台端末からアクセスできるが、端末ごとの件数の統計は取っていない。セキュリティ対策はアクセスコード及びパスワード制限をかけている。 (指導課長) ②心理士資格や教員OB、SNS相談員歴1年以上等が要件になっている。
森川 慎 (政友クラブ)	①件数は多くても相談した人数が少ないということはないか。 ②警察や相談機関への対応実績はあるか。	(指導課副参事) ①委託業者からは他市町と比較すると四日市市の相談率は高いと聞いている。 (教育長) ②個別の案件にあたるため件数は答えられない。 (指導課長) 専門機関に連携したケースはある。
今村 厚美 (無所属)	小学5年生が多い理由は。	(指導課副参事) 小学5年生からアプリを導入しているからと考えられる。

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨
 ◎令和6年度当初予算(自殺予防の取組について)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
森川 慎 (政友クラブ)	<p>①昨今、小中高生が自殺する報道をよく見る が、自殺予防の取組について関連する予算 はあるのか。学校現場の取組はどうか。</p> <p>②子どもの自殺が増えている原因を分析し、 教育委員会としての考え方は持つておく必要 があるのではないかと。</p> <p>③悲劇を未然に防ぐために事前に教職員や 教育委員会が考えてほしいと考えるがどう か。また、ここ2、3年で本市ではこうした小中 学生の自殺は発生していないのか。</p>	<p>(指導課長) ①生命・性の授業や相談アプリを活用した取 組、薬物乱用防止教育、四日市早期支援 ネットワーク(YESnet)の取組、いじめ問題に ついてのアンケート、Q-U調査、精神科医 療機関と連携した教職員研修など、様々な事 業において取り組んでいる。また、自殺に関 わる対応としては、TALKの原則について各 教職員で共通理解を図っている。</p> <p>(教育監) ②将来に希望を持てるよう、キャリア教育な どを通じて子どもたちの気持ちを将来に向け ること、日々の教育相談や個々の子どもたち への対応に加えて、様々なツールの活用によ って何とか子どもたちの声を拾うための取 組も重要である。さらに、教員への研修、保 護者との連携も進めていくべきと考える。</p> <p>③相談先をはじめとして、様々な選択肢をつ くることが重要と考えている。家庭や教員だけ でなく、チーム学校として、また、地域とも協 力して、多くの人子どもたちを見守り、何か 可能性が生じた際にはすぐに対応できる体制 が大切だと考えている。自殺について報告は 受けていない。</p>

◎令和6年度当初予算(道徳教育総合支援事業費)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
笹井 絹予 (政友クラブ)	道徳教育の成果や課題を知りたい。	<p>(指導課長) 「考え、議論する道徳」への質的転換を図っ ている。以前には一定の価値観を押し付ける といった課題があったが、「考え、議論する道 徳」として変換することで子どもたちにとって 道徳が楽しくなるよう取り組んでいる。</p>
森川 慎 (政友クラブ)	推進校の取組と他の学校で差が生じない か。推進校は1年限りで変わっていくものなの か。	<p>(指導課長) 推進校を2校指定し、そこで専門的な講師 を招聘し授業改善を図っている。そこで得た スキルなどを授業公開などを通して市内全域 に広げることで、学校間で差のない取組とし ている。 推進校は毎年異なるわけではない。2年目 として実施した学校もある。継続して行うこ とも良さがあるが、広げていくという意味では短 い期間で多くの学校で実施することもよいと 考えている。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨
 ◎令和6年度当初予算(学校規模等適正化事業費(小規模特認校制度について))

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>森川 慎 (政友クラブ)</p>	<p>①普通の学校とは違う教室を作り、差別化を図るのか。または従来の授業に追加するかたちか。授業のやり方も変わるのか。他の学校との違いはあるか。</p> <p>②全市的に進める授業とは違う方式が展開していくということか。先進的な教育を水沢小学校だけが受けられるということか。</p> <p>③これまでにない取り組みで、今後、水沢小学校と他校との学力等の乖離の懸念があるが、授業の進め方のノウハウはあるか。</p> <p>④事務補助員は準備用の雇用か。どういう人を雇用予定か。非常勤か。どのような勤務になるか。</p> <p>⑤準備が進み次第、順次委員会に報告を上げてほしい。また、保護者等に不利益が被らないよう情報の周知等に配慮してほしい。現時点で問い合わせなどは届いているか。</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>①小規模校であるため、一般教室の空きスペースや空き教室に、対話につながるような机や移動式のホワイトボード等を利用して、学び合いのできる環境等を整える。指導方法など、原則的な部分に大きな変化はない。</p> <p>(教育総務課政策GL)</p> <p>②指導要領に基づいた授業のままであるが、少しでも子どもたちの多様な関わりを増やすような環境を設けたい。大きく学習内容が変わるわけではなく、学習方法を多様に変化させたい。</p> <p>③多様な学びの場を設けるという点は学習指導要領に基づき全市的に進めている。小規模校において、多様な見方や考え方に触れる機会を増やしたい。ノウハウについては、先進校の視察や、大学教授の知見等を借りて進めており、今後とも取り組んでいく。</p> <p>(教育総務課長)</p> <p>④令和7年度制度導入に向けて、令和6年度に周知が始まり、問い合わせの対応や見学等の手続き、学校間の連絡調整等が必要になることから、雇用予定は調整に長けていて、可能なら地域事情に明るく学校事情を把握されている方を想定している。雇用形態は非常勤。パートタイムの会計年度任用職員を想定している。</p> <p>⑤特に頻繁な問い合わせはない。来年度に積極的な周知を行って以降増加するものと考えている。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
谷口 周司 (新風創志会)	<p>①水沢小学校における導入は実証実験か。または今後継続的な導入をするのか。</p> <p>②今後導入が難しい段階にもなるかと思う。どの段階になれば継続困難と判断するか。</p> <p>③準備段階でしっかりと制度の利用体制を充実させ、より多くの方が利用してもらえる、良いものができるよう取り組んでほしい。(意見)</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>①本格導入として考えている。継続予定。</p> <p>②導入してみないと不明な点もある。万が一制度利用者がいない場合でも継続して導入する。どのような状態になると継続をやめるかまでは検討していない。</p>
山口 智也 (公明党)	<p>①水沢小学校が不登校児童が通う学校という印象になることは避けるべきと考えるがいかか。</p> <p>②結果としての受け入れは否定しないが、不登校の児童が通う学校という印象が先行しないよう留意してほしい。(意見)</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>①まずは小規模校としての水沢小学校の良さを前面に押ししていきたいが、制度を理解いただいたうえで結果的に不登校の児童が入学することもありうる。</p>
森川 慎 (政友クラブ)	今後市内に特認校を拡大していくことは検討しているか。	<p>(教育総務課長)</p> <p>今回の水沢小学校への小規模特認校制度導入は、適正化計画上の推計値において著しく減少が見られたことで判断した。現時点では他校への導入は考えていない。</p>
今村 厚美 (無所属)	現在水沢小学校に通う児童にはどのように周知しているか。	<p>(教育総務課政策GL)</p> <p>児童にはまだ直接周知はしていないが、PTA会長を含めた地域関係者に周知している。今後周知を積極的に行うにあたり、学校を通じて児童にも説明予定である。</p>

◎令和6年度当初予算(プレ社会人セミナーについて)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
笹井 絹予 (政友クラブ)	いつから開始した事業なのか。また、年間何回開催しているのか。講師の選定は学校が行っているのか。生徒の反響など、成果はどうか。	<p>(指導課副参事)</p> <p>令和2年度から実施している事業であり、それぞれの中学校で年1回開催している。講師は各学校が決めている。</p> <p>その道のプロの生きざまを聞き、自分の生き方を振り返るなど有効に作用している。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨
 ◎令和6年度当初予算(四日市市奨学金事業)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
森川 慎 (政友クラブ)	<p>①奨学金は経済的理由だけで受けられるか。また令和5年度の採用状況はどうか。</p> <p>②国からの物価高騰対策交付金を活用していたと思うが、令和6年度は全て市費での対応となるのか。</p> <p>③貸与分は返還時に市内在住で免除となるが、こういった理由でこのような制度としているか。</p> <p>④優秀な子を経済的理由で市内に縛り付けるのではなく、将来の活躍を期待して全額給付とすることはできないか。</p> <p>⑤可能性を抑制することを危惧する。将来的には全額給付も検討してほしい。(意見)</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>①市民もしくは市民の子が対象で、経済的な理由により受けることができる。採用はほぼ予算額に近い状況。</p> <p>②令和6年度は全て市費で賄う。</p> <p>(教育総務課総務GL)</p> <p>8月補正で増額した令和6年度奨学生への入学支度金は物価高騰対策交付金を活用した。</p> <p>(教育総務課長)</p> <p>③経済的理由から修学が困難な高校生、大学生を支援する制度だが、市の政策として将来の定住促進も視野に入れている。</p> <p>(副教育長)</p> <p>④令和4年度から始まったところで、免除と返還の割合がまだ見えていない。状況、効果も見て変更が必要であれば検討する。</p>

◎令和6年度当初予算(学校業務サポート事業費)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
谷口 周司 (新風創志会)	<p>①校務支援システムが拡充となっているが、どこをどう拡充するのか。</p> <p>②Home&Schoolとの連携はどうか。欠席の連絡が校務支援システムに反映するのか。</p> <p>③先生の出退勤の管理はできているのか。</p>	<p>(教育支援課長)</p> <p>①ダッシュボード機能、生活ログ管理システム等、オプション機能として付けることによって、子どもの情報が一元化される。</p> <p>②学校で確認すると連携される。</p> <p>③自分が出勤したらクリック、退勤時間も記録される。残業時間も出るようになっている。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨
 ◎令和6年度当初予算(部活動サポート事業費)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>森川 慎 (政友クラブ)</p>	<p>①令和8年度の部活動の地域移行に向けて、総合型地域スポーツクラブ、拠点型活動を行う団体等と、平日の部活動とのすみ分けと連携はどうか。</p> <p>②令和8年度以降に平日も含めた全ての部活動を地域移行していく考えはあるのか。</p>	<p>(指導課副参事) ①学校の部活動は部活動指導員の指導も含めてスポーツ振興センターの保険を適用するが、総合型地域スポーツクラブでの活動、拠点型活動については各運営主体が責任をもって別途保険をかけている。学校の部活動での指導者と、総合型地域スポーツクラブの指導者との間で生徒の特徴や指導の方向性などについて情報共有しながら生徒の指導に当たっている。</p> <p>(教育長) ②県の方針が示されておらず、学習指導要領に部活動についての記載が残っていることから、国、県の動向を注視している。まずは休日の地域移行に取り組んでいく。</p>
<p>谷口 周司 (新風創志会)</p>	<p>①生徒たちにとって中学校生活は3年間しかないため、その中で生徒に影響があってはいけない。四日市市部活動あり方検討会での協議では、ある程度のスケジュールは出ているのか。</p> <p>②部活動への加入が必須でなくなると、放課後に部活動をせず時間を持て余す生徒が増える。今まで部活動でエネルギーを発散していた中学生の居場所づくりについても、今後地域と共に検討する必要があると考えるがどうか。</p>	<p>(指導課長) ①大まかなスケジュールは出ているが、来年度からの調査研究、調査結果を踏まえてしっかりと将来の方向性を示したい。</p> <p>(教育長) ②中学生に限らず、小学校、高校、若い年代も含めて子どもたちが目的に応じて参画できる場所は大切だと考える。来年度から、コミュニティスクールの組織と共に、学校以外の主体で、子どもの居場所づくりにどのように取り組めるのか、検討課題として話し合いたいと考えている。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨

◎令和6年度当初予算(教職員研修費)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
谷口 周司 (新風創志会)	<p>①コンプライアンス研修について、不祥事のニュースを聞くが、どのように取り組んでいるか。</p> <p>②卒業後の生徒に教員から連絡・訪問することはないということでしょうか。</p>	<p>(教育支援課長)</p> <p>①初任者研修や校長会等で教育委員会事務局からコンプライアンスの醸成について各校に依頼している。</p> <p>(学校教育課長)</p> <p>②卒業後の連絡については今年も卒業後・在学中に関わらず、例えばSNSにおける連絡は控えるよう伝達している。</p>
山口 智也 (公明党)	<p>①休日・夜間に実施される研修もあるかと思う。概ね何割が休日夜間に実施されているか。</p> <p>②研修が多ければ多いほど良いというものでもない。研修は時代に応じて内容を変えることや、必要最低限に抑えていくことも必要かと思うが、その点どう思うか。</p>	<p>(教育支援課長)</p> <p>①夏季冬季休暇などを利用しているが、土日夜間に実施する研修は原則としては設けないようにしている。</p> <p>②ICTを活用し、教職員参加者からのアンケートの収集を容易かつ即確認できるような体制をとっている。回答を確認しながら、継続利用が必要か、ニーズに合っているか等を検討し精査している。</p>
森川 慎 (政友クラブ)	<p>研修会に出たいが出られないという意見も聞いたことがあるかどうか。</p>	<p>(教育支援課長)</p> <p>会場から遠い学校などのためにWeb会議システムを使った研修も開催している。</p> <p>緊急時の対応において欠席となった職員に資料を渡すなど、対応をとっていきたい。</p>
今村 厚美 (無会派)	<p>近年重視されている講座はあるか</p>	<p>(教育支援課長)</p> <p>ICTによる授業の進め方のほか、児童生徒への対応にかかわる講座は要望が多い。</p>
笹井 絹予 (政友クラブ)	<p>令和5年から図書館研修が増えているがどのような研修か。</p>	<p>(教育支援課研修・研究GL)</p> <p>従来も行っていたが、電子図書館などの利用開始もあり、図書館教育が重要な項目として増設した。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨
 ◎令和6年度当初予算(不登校対策推進事業費・登校サポートセンター事業費)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
谷口 周司 (新風創志会)	①四日市市として、不登校の児童生徒への対応方針を聞きたい。 ②不登校児童生徒の家庭にはどのような頻度で電話や訪問など対応しているか。 ③登校サポートセンターの役割は重要だと思う。多種多様な要望に対応できる体制を設けてほしい。(意見)	(教育支援課登校サポートセンター所長) ①当該児童生徒や保護者の希望に寄りそって対応している。 ②要望に沿って合意形成をしながら進めている。
今村 厚美 (無会派)	①登校サポートセンター利用者は中学校・高学年が多いという認識だがあっているか。 ②登校サポートセンターの利用者も高学年か。 ③自宅から通いにくいなどの指摘はあるか。 ④令和4年度の不登校725人とあるが、校内ふれあい教室利用児童生徒数はどれくらいか。	(教育支援課登校サポートセンター所長) ①高学年になるに伴い増えている。 ②ふれあいとわくわくの2種ある。ふれあいは高学年から中学生。わくわくは対象を絞っている点もあり、学年に応じての増減傾向は大きくみられない。 ③ご指摘のとおり。そのため校内ふれあい教室の設置を進めている。 ④中学校は3割程度が登校サポートセンターを利用している。小学校はわくわく・ふれあい通して1割未満である。
谷口 周司 (新風創志会)	①卒業後の中学校3年生以降の生徒はどのようにつないでいるか。 ②卒業後に全くつながりが消えないよう、教育委員会だけでなく庁内間でつながってほしい。(意見)	(教育支援課登校サポートセンター所長) ①卒業後に相談できる窓口を案内。既に関係機関につながっている生徒は個人情報に気をつけながら情報提供など引継ぎをする。どこにもつながっていない場合は弟妹を通して保護者に関わる等対応している。現状9割は就学就労につながっているが、一部のつながらない生徒もいる。SSWと連携しながらつながりが切れないように取り組みたい。

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
山口 智也 (公明党)	<p>①校内ふれあい教室の運営について、対応スペースなどが不足している学校はあるか。</p> <p>②勉強しやすいようカメラやタブレットを通して授業できるようなハード面の整備も必要かと思うが来年度整備体制はいかがか。</p> <p>③文部科学省のCOCOLOプランには校内サポートセンターでの学習成果を成績の評価を行うことに記載があるが、本市の対応はいかがか。</p> <p>④不登校児童生徒の保護者の支援はいかがか。</p>	<p>(教育支援課登校サポートセンター所長)</p> <p>①計画的に利用しており、現状対応が可能な状況にある。</p> <p>②対象の子が望む範囲で、学校と合意形成できた場合は実施する。ニーズを精査しながら検討していきたい。</p> <p>③教科担当教職員が校内ふれあい教室に入り学習を行うこともある。参考資料として成績にも活用している。学校には、表記で具体的に評価をしていくよう各校にも依頼しているところである。</p> <p>④来年度は対象を広げた保護者会を開催するとともに、三重県主催の場も紹介する予定である。</p>
山田 知美 (新風創志会)	<p>①登校サポートセンターや校内ふれあい教室への参加は出席扱いか。</p> <p>②校内ふれあい教室について周知しているか。</p> <p>③校内ふれあい教室に、対象の生徒が全員出席した場合は対応できるか。</p>	<p>(教育支援課登校サポートセンター所長)</p> <p>①登校サポートセンターは(合理的な配慮として)出席扱い、校内ふれあい教室は学校への登校となる。</p> <p>②周知によってかえって不登校になってしまったケースもあるため、様子を見ながら案内をしている。</p> <p>③現状、広さに関しては入れない状況はない。今後増加していく可能性もあることから、受け入れ対応をしていきたい。</p>
水谷 一未 (市民目線の会)	<p>令和6年度は4中学校に校内ふれあい教室を設置予定とあるが、設置は確定か。またどこに設置予定か。</p>	<p>(教育支援課登校サポートセンター所長)</p> <p>港・三滝・西笹川・山手中に設置する。</p>
今村 厚美 (無会派)	<p>支援学級の児童生徒は校内ふれあい教室を利用できるのか。難しい場合は理由を聞きたい。</p>	<p>(教育支援課登校サポートセンター所長)</p> <p>特別支援学級は、同じ学校の敷地の中で、既に少人数対応を行っている。校内ふれあい教室は特別支援学級よりも規模が大きくなっており、かつ校内ふれあい教室では本人の特性は考慮するが、主に不登校支援を行うところである。登校サポートセンターについては特別支援学級の児童生徒の利用を認めているので、そちらを案内している。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
山田 知美 (新風創志会)	<p>①不登校児童生徒支援ボランティアの活用について、どのような学生が何人程度携わっているのか。</p> <p>②主にどのような業務を支援しているのか。</p> <p>③家庭への派遣はハードルが高いと感じるが、他の指導員と同行して行くのか。生徒とのトラブルはなかったか。研修は行っているのか。</p> <p>④学生ボランティアのメリットは当事者と年齢が近いため子どもたちが心を開きやすい要素があることであり、今後も力を入れて取り組んでほしい。(意見)</p>	<p>(教育支援課登校サポートセンター所長)</p> <p>①大学で教育学部、医学部、心理学科などを学ぶ学生が10人程度登録し活動している。</p> <p>②登校サポートセンターの指導員やスタッフの補助を行う学生がほとんどである。また、1回で終了したが、学生ボランティアを家庭へ派遣し、子どもの話し相手、遊び相手になる活動があった。</p> <p>③基本的には一人で訪問する。訪問に当たっては登校サポートセンターのスタッフ、保護者、本人、大学生ボランティアの中で事前にしっかりと約束事を決めた上で行っている。学生ボランティアになってすぐに家庭へ派遣することはない。活動の中で様々な生徒への対応ができる学生に声をかけて、申し込みのあった家庭へ派遣している。研修は年3回ふれあいフレンド研修会を行っている。</p>

◎令和6年度当初予算(インクルーシブ教育推進事業費)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
今村 厚美 (無会派)	<p>①サポートルームの充実について、「2校減」とあるが実質は増減なしでよいか。</p> <p>②介助員・支援員の適正配置について、「特別支援学級に介助員を、通常の学級に特別支援教育支援員を」とあるが、どのような配置か。</p>	<p>(教育支援課長)</p> <p>①市としては2校減となっている。県の通級指導教室が2校設置されたため、専門的な教員も配置されているので対応できている。</p> <p>(教育支援課特別支援教育・相談GL)</p> <p>②特別支援学級の子どもには介助員を配置し、通常学級で特別支援教育の点で支援が必要な何人かの子どもに支援員を配置している。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨
 ◎令和6年度当初予算(教職員数の不足について)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
森川 慎 (政友クラブ)	<p>①来年度の見込みはどうか。</p> <p>②来年度も30人学級はできそうにないか。</p> <p>③授業には影響はあるのか。</p> <p>④病気休暇の教職員はどの程度いるのか。</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>①来年度も不足傾向に変わりはないが、担任不足にはならないように努力したい。非常勤講師での対応も考えるなど、授業に支障が出ないようにしたい。</p> <p>②できない。</p> <p>③他学年など教員免許のある者でカバーし、学びを止めないように対応する。</p> <p>④小中学校合計で令和4年度45人、令和5年度28人となっている。</p>
谷口 周司 (新風創志会)	<p>①教員免許のない地域人材等をどんどん学校に入れていくべきではないか。</p> <p>②校長や教頭も含めて民間の活用を検討していくべき。(意見)</p> <p>③30人学級について、できていた時に比べて教職員への影響はあるのか。</p> <p>④30人学級はきめ細かな教育ができると理解している。維持するためにも教員の補助となる人に教員免許を求めないなど、子どもたちに影響がでないよう最大限努力してほしい。(意見)</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>①地域人材の活用については、各地区市民センターや自治会長に依頼するなど広く呼び掛けている。</p> <p>③現状では、教職員の時間外勤務が増えたというような相関関係はないと考えている。</p>

◎令和6年度当初予算(学校が児童生徒から現金を預かる場合の取り扱いについて)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
谷口 周司 (新風創志会)	<p>①現金を預かることが教職員の負担になっているのではないか。</p> <p>②先生、保護者、子どもの負担軽減になるので、ネット注文やキャッシュレス化を進めてはどうか。</p> <p>③業者に負担が掛かるのであれば、市がプラットフォームを整えるなど、ぜひ取り組みを進めてほしい。(意見)</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>①ネット注文等に変えているところもあるので、学校と業者で調整を進めてほしいと考えている。</p> <p>②業者に負担を掛けることになる。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨

◎令和6年度当初予算(一般給食備品整備費(真空冷却機))

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
山田 知美 (新風創志会)	<p>①令和6年度は小学校10校への導入だが、この10校を選定した理由は何か。</p> <p>②この機器を選定した理由は何か。</p> <p>③専門家と連携をとって進めてはどうか。</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>①全校への導入を目指しているが、まずは設置スペースの確保など容易に設置が可能な学校から選定した。</p> <p>②最大規模の食数に合わせて選定した。</p> <p>③管理栄養士など専門的な知見を十分に活用していきたい。</p>

◎令和6年度当初予算(学校給食運営費)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
谷口 周司 (新風創志会)	<p>①「保護者負担が増えないよう」と記載されているが、本当に保護者負担は増えないのか。</p> <p>②今後の給食費についてはどうか。</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>①来年度については、物価高騰分を公費負担する予算を計上しており、給食費の値上げの予定はない。</p> <p>②前回の値上げが7、8年前であることから値上げのタイミングは近づいていると考える。今後も物価の状況を注視しながらを検討をしていきたい。</p>
村上 暁 (日本共産党)	<p>①物価上昇が続いているが、オーガニック食材は使用できているのか。</p> <p>②オーガニック食材を使用しているということか。</p> <p>③物価高でも地産地消、無農薬の食材を使うよう取り組んでほしい。(意見)</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>①商工農水部と連携して地産地消に取り組んでおり、26品目の食材を使用することを目標にしている。これまでどおり安全安心な食材が使用できるよう努めていく。</p> <p>②オーガニック食材とは異なるが、食材を選ぶ際、出来るだけ農薬の少ないものを選ぶなど、安全安心に努めている。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨
 ◎令和6年度当初予算(図書管理システムについて)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>山口 智也 (公明党)</p>	<p>①自動貸出機は現在の1冊ずつ読み取るものから10冊一度に読み取るものになるということか。 ②自動返却機は初めての導入か。 ③せっかく良いものを設置するので、より多くの市民が利用できるよう周知していただきたい。 ④自動貸出機や自動返却ポストの設置は新図書館への移行時でなく現時点で導入するメリットは何か。</p>	<p>(図書館長) ①②そのとおり。 ③来年度(令和7年3月)のシステム更新に合わせて設置するので広報等で周知していく。 ④土日は混雑し待ち時間が長くなっているため、待ち時間の短縮になる。また、貸出返却には図書館職員が1冊ずつ処理を行っており利用者が借りた図書がわかってしまうデメリットがある。自動貸出・返却を導入することで利用者のプライバシーが守られるほか、図書館職員も業務負担の軽減につながり専門的な業務に専念できる。さらに、自動返却ポストの導入でポストに本を投函するとすぐに新しく本を借りることができる。 新図書館移行前にICタグを導入することで、新図書館開始時には混乱なくシステムを利用していただけたと考えており、メリットは非常に大きいと考える。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨

◎令和6年度当初予算(電子図書館運営費)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>谷口 周司 (新風創志会)</p>	<p>①電子図書館の導入時と比べて利用状況はどのようになっているか。目標値には達しているのか。</p> <p>②電子図書館についてまだ知らない人がいるので、広く周知していくべき。</p> <p>③来年度のコンテンツはどのくらい増やすのか。</p> <p>④予算書を見ると電子図書館運営費に運営費に係る経費と事務経費等の記載があるが、電子図書館運営費にコンテンツの経費が含まれているのか。</p> <p>⑤電子図書館を利用できるのは四日市市の市民と四日市市に在勤在学の人だけで、紙の本の利用者とは範囲が異なっている。他市町との連携について、広域利用を四日市が率先して行ってはどうか。長野県などの例もある。</p> <p>⑥朝日町など四日市市立図書館を利用している人から電子図書館の利用希望も聞いている。三重県が動かないようだったら四日市市が率先してすることも検討してもらいたい。(意見)</p>	<p>(図書館長)</p> <p>①利用状況は想定どおりと考える。導入時の目標である登録者数5万人は超えている。</p> <p>②周知は一度で終わるのではなく、導入時の記者会見を始めとして、広報よっかいちやホームページ、XなどのSNSも利用し何度も情報を発信していく。</p> <p>③予算ベースでは1,200冊程度である。そのほか読み放題パックも継続購入する予定で、25,000~30,000冊を維持できるように導入していく。</p> <p>④予算書の個別事業調書「電子図書館運営費」にその記載がある。個別事業調書の2(1)電子図書館運営費にかかる経費『電子書籍、読み放題サービス使用料』にコンテンツ購入費が含まれている。</p> <p>⑤令和4年9月に1市3町で電子図書館の広域利用について勉強会を行っている。電子図書館の負担金についての費用負担や四日市市の図書館システムと電子図書館の連携について話し合いを行った。そのうえで四日市市が単独で電子図書館を導入することになった。紙の本は他市町で相互利用を行っているが、電子図書館については、本市が導入したもののだけを相手側も利用することになるため、費用負担についての調整が必要になる。また、長野県の事例は県立図書館が主導して行っている。三重県は電子図書館の導入数も少ないが、三重県立図書館に要望は行っている。</p>
<p>今村 厚美 (無所属)</p>	<p>電子図書館ホームページの読み上げ機能、文字の大きさや色の変更などは、何らかの基準に沿って導入しているのか。</p>	<p>(図書館長)</p> <p>バリアフリーサービスは図書館として一般的な機能であるとの認識であり、業者選定のプロポーザルの際に機能要件を付した。</p>
<p>森川 慎 (政友クラブ)</p>	<p>電子図書館は試用期間を終えて本運用になったのか。試用期間は学校運用ではないのか。</p>	<p>(図書館長)</p> <p>電子図書館は10月に一斉に開始した。学校の教職員については事前に利用案内について動画で紹介したが、開始は同時期である。</p>
<p>今村 厚美 (無所属)</p>	<p>電子図書館利用者で障害者の方の利用率は把握しているか。</p>	<p>(図書館長)</p> <p>利用申請には障害要件の申請を必要としていないので把握していない。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨
 ◎令和6年度当初予算(博物館特別展等開催費)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>森川 慎 (政友クラブ)</p>	<p>①工事期間と工事の内容はどういったものか。</p> <p>②エレベーターは老朽化や傷みが激しい状態なのか。</p> <p>③プラネタリウムのコンピューター機器更新についても、工事計画の一つか。</p> <p>④更新後に番組変更等は予定しているか。</p> <p>⑤プラネタリウムに入場するのにかなり並んだ。座席指定等によって改善できるのではないか。</p> <p>⑥四日市公害と環境未来館も工事の中に入っているのか。</p>	<p>(博物館副館長)</p> <p>①11月から2月までの4カ月間である。アセットマネジメントにもとづいて令和4年度から3年間の計画で行っており、令和5年度も外壁改修工事を行った。令和6年度はエレベーター、受変電設備を予定している。同時に、トイレ改修、バックヤード側照明LED化、特別展示室床改修等も合わせて行う。</p> <p>②エレベーターは開館から30年経過しているため、ワイヤーロープやモーター等を更新する。</p> <p>③コンピューター機器更新は平成27年のリニューアル後のプラネタリウム長期保全計画に基づくもので、本来は令和7年度の更新を予定していたが、年に数回不具合が起こることもあり、令和6年度の長期休館に合わせて前倒しで行う。</p> <p>④番組等の変更は予定していない。</p> <p>⑤前の番組観覧者の退場や投映準備のためお待ちいただくことになっている。早く入るのは番組のタイムスケジュール的に難しい。キャッシュレス化、座席指定については今後検討していく。</p> <p>⑥そらんぼ四日市として工事を行うため、含まれている。</p>
<p>水谷 一未 (市民目線の会)</p>	<p>①きらら号は市外への派遣をしているのか。</p> <p>②四日市市内は無料か。</p>	<p>(博物館副館長)</p> <p>①四日市を中心に、鈴鹿市や桑名市、菰野町など、CNGガスで往復できるエリアで派遣ができる。派遣に係る費用は市外の場合は主催の方に負担をいただくことになる。</p> <p>②市内の団体に派遣する際は無料。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨

◎令和6年度当初予算(教育費全般について)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
谷口 周司 (新風創志会)	<p>①令和6年度の一般会計予算に対して教育費は12.1%だが、教育委員会としては満足しているのか。</p> <p>②学校予算の充実について</p>	<p>(教育長)</p> <p>①以前は1桁%だった。12.1%はこれまでに比べるとかなり配当していただいているが、まだまだ不十分なところもあると思う。きちんと整理して必要な予算獲得に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>(学校教育課長)</p> <p>②学校運営費として、各校の要望に対して検討し、公平性を担保したうえで、学校に分配している。予算の範囲内で均等に学校に不備が起こらないように配当しており、今後も学校の要望を聞いたうえで、予算配当をしていきたい。</p>

◎令和6年度当初予算(来年度廃止事業について)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
加納 康樹 (フューチャー 四日市)	来年度予算で廃止した事業はあるか。	<p>(教育長)</p> <p>来年度廃止事業は、教員不足により少人数学級拡充事業(よっかいち30人学級編成)、小学校で当たり前になってきたことに加え、講師確保が難しいため教科担任制研究推進校、民間委託を進めていることから小学校のプール改修、教育支援課が全校訪問することとしたのでICT推進校が休止及び廃止となっている。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨
 ◎令和6年度当初予算(PTA会費について)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>森川 慎 (政友クラブ)</p>	<p>①学校経費の配分基準は何か。</p> <p>②PTA会費の使途について教育委員会はノータッチか。</p> <p>③物品などによっては、PTA会費で賄うべきではなく、公費で賄うべきものはないのか。</p> <p>④PTA会費の多い少ないにより、子どもたちの学校生活が不公平、不平等になっていないか。</p> <p>⑤不公平、不平等になっているところについて、公費の補填を検討してはどうか。</p> <p>⑥PTA会費の多い少ないと、会員数の多い少ないは連動しているか。</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>①学校からの要望と現状から検討している。</p> <p>②PTA会費の使途について指導はできないが、PTAから寄付があった場合の学校からの相談などには応じている。</p> <p>③学校運営費における公費と私費の考え方を整理し、運用をしている。</p> <p>④PTAの加入は自由意志であり、PTAで決めていただいている以上、当然学校によって児童生徒に恩恵の差はでてくる。同じ学校の中で差が出ることはふさわしくないとは認識している。校長を通じてPTAに今後の検討材料として助言することは可能であると考え。</p> <p>(教育長)</p> <p>⑤公費で賄うべきところは公費で賄うようこれまで努力してきた。その中で、PTA会費自体を減額した学校もある。公費と私費の使途については、校長を通じて都度周知していきたい。</p> <p>(学校教育課長)</p> <p>⑥連動はしていないと考える。</p>
<p>谷口 周司 (新風創志会)</p>	<p>①PTAに加入しているのは、保護者だけか。</p> <p>②これからのPTAの在り方について検討してはどうか。</p> <p>③積極的に助言してほしい。(意見)</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>①先生も加入している。</p> <p>(教育長)</p> <p>②任意団体のため指導はできないが、助言をしていきたいと思う。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会教育民生分科会)の質問質疑に対する答弁要旨

◎補正予算(一般職退職手当)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
森川 慎 (政友クラブ)	退職予定者の減とはどういうことか。	(教育総務課長) 予定として見込んでいたものの、勸奨退職者が少なかったもの。

◎補正予算(事務局一般経費(教育総務課))

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
森川 慎 (政友クラブ)	パートタイム会計年度任用職員が思っていたよりも採用できなかったということか。	(教育総務課総務GL) 育休代替の任用が不要であったほか、当該科目で教育委員会内のパートタイム会計年度任用職員の共済費を全て賄っており、全体的に任用できなかった等の理由で積み重なり、想定を下回ったもの。

◎補正予算(インクルーシブ教育推進事業費)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
森川 慎 (政友クラブ)	パートタイム会計年度任用職員が想定より集まらなかったことによる減額補正か。	(教育支援課特別支援教育・相談GL) 主に介助員のうち会計年度任用職員パートタイム非常用の任用が全体の40%になり、期末手当の支払いが発生しなかった。市の広報でも登録者を募集しているが難しい状況。常用1名のところへ、非常用2名任用して子どもの対応にあたっている。

令和6年2月議会(教育民生常任委員会 報告)の質問質疑に対する答弁要旨
 ◎四日市市学校規模等適正化事業について

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>谷口 周司 (新風創志会)</p>	<p>①現在検討対象校になっているのは小規模校だが、大矢知興譲小学校など大規模になっていく学校への対応の記載がない。どのように検討しているか。</p> <p>②大規模校の検討も必要。取り組んだ結果どうなるか、研究・検討を常に重ねてほしい。また、行政区による学区域に関しても再度検討する必要があるのでは。近隣学区に通う方が規模的にも良い可能性もある。(意見)</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>①今年度の推計値において、大規模による検討対象校になった学校はない。大矢知興譲小学校も途中で児童数が減少傾向になるため、様子を見ながら対応を検討したい。</p>
<p>森川 慎 (政友クラブ)</p>	<p>①適正化の事業はいつも後手になっているように感じる。決して統廃合を積極的にすべきというわけではないが、10年よりさらに先のことを見据えて動いていくべきではないか。</p> <p>②地域の思いもあり、推計だけに頼るものではないと理解しているが、全市的な動向を見て取り組んでほしい。(意見)</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>①地区の実情において、過去の歴史的経緯や住民の生活圏、行動圏、地域活動にかかる思いなども複雑に関係すると考えられ、推計値だけで進めるわけにはいかない。すぐに対応するとは回答できないが、念頭において取り組んでまいりたい。</p>

令和6年2月定例会議会の 経過について

(予算常任委員会全体会)

四日市市教育委員会

令和6年2月議会(予算常任委員会全体会)の質問質疑に対する答弁要旨
 ◎新教育プログラム推進事業費(リテラス論理言語力検定)について

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>村上 暁 (日本共産党)</p>	<p>①学びの一体化において授業改善を進めるとはどういうことか。</p> <p>②キャリアパスポートは教員と子どもの双方が所有しているのか、また、リテラスの結果をどう活用しているのか。</p> <p>③ワークシートはどのようなものか。</p>	<p>(指導課副参事)</p> <p>①小学校から積み重ねてきたことの結果を中学校区で共有し、授業改善につなげている。全体で見えてくる傾向などの結果を小学校とも共有している。</p> <p>②パスポートは子どもが持ち、教員と共有し、積み重ねていくもの。そこにリテラスの結果も綴じていく。</p> <p>③ドリルのような練習問題、自分の振り返り学習を深めるもの。</p>
<p>伊藤 嗣也 (政友クラブ)</p>	<p>①入試活用について、資格取得した後にどのように活用できるのか。</p> <p>②資格を取得したような資料となっており、わかりにくいのではないか。</p>	<p>(指導課副参事)</p> <p>①本市ではアセスメント検定であり、何級相当ということにとどまり、高校入試資料には使えない。文部科学省の認めた検定のひとつとして、高校では大学入試の際に自己アピールのひとつとして使っている。</p> <p>(教育監)</p> <p>②本当の資格ではないが、3つの力(語彙運用力、情報理解力、社会理解力)の確認、振り返り、学びの見通しをもたせるもので意義あるもの。</p>
<p>諸岡 覚 (新風創志会)</p>	<p>学校現場にはどのような説明をしているのか。</p>	<p>(教育長)</p> <p>中学校ではアセスメントテストであり、英検I BAで英検三級相当ということと同様ということ、子ども・保護者にも伝えていく。</p>
<p>森川 慎 (政友クラブ)</p>	<p>本試験があるのか。</p>	<p>(教育長)</p> <p>検定日は指定されている。あくまで本市ではアセスメント検定であり、学力を測定するためのテストである。</p>
<p>荒木 美幸 (公明党)</p>	<p>長い目で見たときに自分で気づいて見直せる機会として意義があるものと思う。1つ危惧するのが、中学校から高校へ進むのに公私立様々な学校へ分かれていくので、キャリアパスポートのつなぎのところはできているか。</p>	<p>(指導課指導主事)</p> <p>キャリアパスポートの引継ぎについて、小学校から中学校については市内で四日市版キャリアパスポートをもっていくことで引き継いでいる。中学校から高校については指導要録の写し等を引き継ぐが、四日市版キャリアパスポートも各高校で活用するよう引き継いでいる。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会全体会)の質問質疑に対する答弁要旨
 ◎新教育プログラム推進事業費(リテラス論理言語力検定)について

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>村山 繁生 (フューチャー 四日市)</p>	<p>①高校生が受けた資料であるようでわかりにくい。</p> <p>②高校生は大学入試へ資格をどう活用するのか。</p>	<p>(指導課指導主事) ①リテラスがどのようなものかという例示として、高校生の受検結果見本を掲載した。四日市市内の中学生に渡っているものと、判定で〇級相当となっている以外はほぼ同じである。</p> <p>(指導課副参事) ②大学入試における調査書に記入し自己アピールとして活用している。</p>
<p>中川 雅晶 (公明党)</p>	<p>①県内の高校で実施校はどこか。</p> <p>②次のキャリアにつなげられる意味で先進的な取り組みだと思う。学校教育ビジョンにかかげた論理的思考や情報活用力の推進のためにも、ぜひ自信をもって取り組んでほしい。非認知能力のスキル向上にも活用されるのか。</p> <p>③授業力向上への意気込みはどうか。</p>	<p>(指導課指導主事) ①把握していない。</p> <p>②今後の共同研究で、図っていく。</p> <p>(指導課副参事) ③効果的に活用し、授業改善や、子どもの学力育成に反映していきたいと思う。</p>
<p>笹井 絹予 (政友クラブ)</p>	<p>①テスト内容は四日市市が関わっているのか。</p> <p>②全国での認知度、標準化されているものか。</p>	<p>(指導課副参事) ①内容づくりはベネッセのみが行っている。</p> <p>②文部科学省の学びの診断ツールとして英検、漢検等と同じように公式資格として認定されている。</p>
<p>小林 博次 (市民目線の会)</p>	<p>この検定で落ちこぼれてしまった子への対応はどうしているか。</p>	<p>(指導課副参事) 義務教育終了時点での能力の確認、自分がどの位置にいるのか確認でき、振り返りと見直しをもつようにしている。</p> <p>(教育監) 3級相当の基準がなくても、それぞれの強みについて判断があるためそれを確認すること、今後の自分の学び、目標を振り返ることにつなげていくことを指導している。今後の学び、意識を持っていくことを大事にしており、進学先ではキャリアパスポートとしてつなげていく。また、今後の学習意欲にもつなげられる。学びを続けていくことの基としている。</p>
<p>太田 紀子 (日本共産党)</p>	<p>指導はせずに、結果を渡して終わりのように聞こえたがどうか。</p>	<p>(指導課指導主事) キャリアカウンセリングとして、進路相談時等にキャリア教育の視点でのアドバイスに活用している。</p>

令和6年2月議会(予算常任委員会全体会)の質問質疑に対する答弁要旨
 ◎新教育プログラム推進事業費(リテラス論理言語力検定)について

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>谷口 周司 (新風創志会)</p>	<p>①先生の負担になっていかないか危惧するが、授業改善について、どう改善するのか。</p> <p>②費用として不登校生徒数も含んだ積算だと思うが、受けられなかった子どもは除いた金額になるのか。</p>	<p>(指導課副参事)</p> <p>①資料の例にあるように個人だけでなく、全体の把握、分析をし、授業改善によって全体に返していく。</p> <p>②受けた子どもの数であり、実数での金額になる。</p>